

「平成 26 年度海外市場探求奨学金」

機械創造工学課程 B4 松浦傑

テーマ：シドニー州の化粧品販売戦略と日本企業参入についての検討。

実務訓練期間：2014/10/19～2015/2/19

実務訓練先：オーストラリア原子力科学技術機構

この報告書では、オーストラリアのシドニー州において販売されている化粧品クリームについて考察していく。化粧品クリームの中でも、主に保湿クリームに焦点を当てていく。さらに、特殊な高級保湿用クリームではなく、大衆向けのクリームを中心に調査を進めて行った。調査対象店として、スーパーマーケット、海岸沿いの雑貨店、化粧品の専門店など調査した。また、ホームステイ先の方々にも、保湿用クリームを購入する際に何を考慮するか等も教えてもらい、調査結果と併せて考察していった。シドニー州のスーパーマーケットでは多種多様な保湿用クリームが販売されている。当然、各スーパーマーケットでは置いてある商品は異なるのだが、どのスーパーマーケットにも共通して置かれている保湿用クリームのブランドがあることに気がついた。Banana boat (Jdb network), baseline (ユニリーバ), ニベア (花王), この3つのブランドはどこにでも共通して見ることができた。ユニリーバはアメリカの会社だが、他の2つ (jdb network, 花王) は日本のブランドである。こうしてみると、日本の高品質かつ、安価である保湿用クリームはシドニー州の人々にとっても魅力的に感じられるものだと考えられる。ホームステイ先の方々に保湿用クリームを購入するときが一番重要視する要素は何かと訪ねて見た所、値段が一番気になると言っていた。その次に何が含まれているか。特に、自然の物が多く含まれているものを好むと言っていた。あくまで、一個人の意見ではあるが、シドニー州で保湿クリームを販売するにはかなり重要な意見となりうるのではないだろうか。

オーストラリアの先住民「アボリジニ」と呼ばれる民族が古来より動物性の油を利用し保湿用のクリームを作っていた。その名残で、日本に比べて、動物性油を使用した保湿用クリームが多く見受けられた。図1は羊の油を利用した保湿用クリームである。もう少し詳しく説明すると羊毛の根元に付着している油分をウールオイルまたはウールグリスと呼ばれ、これを精製したものを使用する。これはラノリンと呼ばれる。当然、羊毛から搾取することが出来るの

で、羊の命を殺めるといった行為は必要としない。また、アレルギーの発症も100万分の6未満であり、ほとんど発症しない。アレルギー性の肌を保つ方々も安全に利用できる。羊の肌を厳しい気候から守る為に、その油は他とは比べものにならないほど、圧倒的な保湿、柔軟効果をもたらす。常に羊毛に触れている、羊毛の刈り込みなどを職業としている人の手がとても柔らかいのはこの働きのおかげである。

図2はエミューの油を利用したものである。エミューオイルを使用したクリームは、通常のクリームに比べて2~3倍伸びる。また、効果の継続時間も長い。通常のクリームは2~3時間になのに比べて、エミューオイルは6~8時間程度もつ。成分としては、リノレン酸、リノール酸、オレイン酸が含まれており、人間の皮脂に非常に近い成分となっている。そのため、エミューオイルは人間の皮膚に最も深く浸透するクリームとして知られている。



図1 羊の油を利用したクリーム



図2 エミュー油を利用したクリーム

これらの動物性のクリームがオーストラリアの強みであると考えられる。日本でも盛んに研究が行われているが、世界の市場で競争していく事を考えれば、動物性のクリームというフィールドで戦うのはあまり得策ではないと考えられる。

マヌカハニーと呼ばれる成分に着目した保湿クリームも多くみられた(図3)。マヌカと呼ばれる木の花の蜜を吸ったミツバチから採取される蜂蜜をマヌカハ

ニーと呼ばれる。このマヌカと呼ばれる花はニュージーランドにしかなく、採取期間（わずか4週間）と採取量が少ないため、とても貴重なものである。一般の蜂蜜と比べ、抗菌作用が強いため、安心して使うことができる。また、熱や光に強いので、夏場などに品質を落とすことなく使用できるのも魅力の一つである。



図3 マヌカハニーを使用したクリーム

これらの調査結果を踏まえて、日本企業がシドニー州においてどのような販売戦略をとるのが望ましいかを検討してみる。動物性のものを利用したクリームを販売していこうとしても、他の動物に豊かな国の方が強力な戦略がとれるので、動物性のもので戦っていく事はあまり得策ではない。今日本の強みである、高い安全性、安価に仕上げる技術力を利用して、それらをアピールし、販売へとつなげていくのが得策だと考えられる。例えば、先ほどあげたマヌカハニーは高い効果が期待できるものの、値段が高いため、一般には使用が難しい。このマヌカハニーを使用したクリームと同等の効果が期待できる代替物質を開発し、誰にも購入できる価格に抑えることができたならば、世界で戦って行けるクリームであると言えるだろう。つまり、日本の乏しい資源を無理にアピールするのではなく、技術力や安全性をアピールしていき、化粧品を販売する事が世界で日本のクリームを販売し、利益を上げることの第一歩だと考えられる。